

松本大学松商短期大学部（商学科・経営情報学科）

1. AP 補助事業の円滑な実施と優先的に実施した事項

1) ルーブリック評価の実施と実施科目の拡大、並びに教員間の共通認識の醸成

2018年度は、コア・コンピテンスの育成を非常勤講師にも拡大し、それに伴ってルーブリック評価の実施科目も増加させた。また、教職員が他の大学、短期大学のAPフォーラム等に参加することで、AP補助事業の意味や我が国の教育改革の方向性の理解を深めることができた。

2) 4学期制に対応した海外留学や長期インターンシップ等のプログラムの開発

2018年度は、以下のような大学等と4学期制を活用した海外留学プログラムを開発した。2019年度以降、順次実施する予定である。

- ・アベリストウィス大学 (Aberystwyth Univ. イギリス) : 語学留学
- ・オーストラリアン・カトリック大学 (Australian Catholic Univ. オーストラリア) : 語学留学
- ・デラサール大学 (De La Salle Univ. フィリピン) : 語学留学、ボランティア活動
- ・モーベンピック・ホテル・アンド・リゾート (Moevenpick Hotel & Resort) : ホテル研修

3) ディプロマ・サプリメントの発行による学生の主体的な学びの促進

学位の補足資料としての「ディプロマ・サプリメント」を卒業時に発行した。また、在学生については、2019年度からの活用を検討している。

4) e-ポートフォリオの構築に向けたシステム改修の継続

学内基本システム（メソフィア）と学修支援システム（グレクサ）との連携が困難であることが判明したことから、両社の統合作業は一応終了した。この改修作業に伴って学修支援システムの使用が制限された時期もあったが、現在、e-ポートフォリオとしての構築が進められている。

2. 就職内定率に加えて職場定着率を高めるキャリア教育の推進

従来のキャリア形成系の科目である「キャリアクリエイト」を再編し、キャリア教育と就職支援の棲み分けを進めた。2019年度から新たなカリキュラムでキャリア教育が進められるが、その効果については卒業生アンケート等で検証する。

3. 高校生等に本学の特色や魅力をアピールし、安定した学生募集の推進

学生募集は景気動向や進学率等、様々な要因によって左右されるが、新たな取り組みである「留学支援型 A0 入試」等の高校生への周知が進まなかったことなどから最後まで予断を許さない状況が続いた。18歳人口の減少スピード等を考えると、本学の魅力を日本の高校生に伝えるのはもちろん、海外の優秀な高校生を引き入れることも考える必要があり、2018年度は中国の嶺南師範学院との「3+1」などその検討を始めた。

4. 国内外の他大学・短大との連携の強化

2018年度は、将来、本学の学生が海外の大学への編入等を考慮して、カナダのトンプソン・リ

バーズ大学 (Thompson Rivers Univ.) との間で覚書 (Protocol) を締結し、短期留学等においても参加費等で優遇される体制を確保した。また、中国の嶺南師範学院との間で、同学院の学生が本学で 1 年間学ぶことで本学の短期大学士を取得する「3+1」の取り組みを開始した。他方で、湘北短期大学との連携強化に向けて双方の教職員による FD・SD 活動の実施や相互訪問を行った。

5. 4 学期制による教育効果を検証と資格取得やコンピテンス育成等の教育効果を更に高めるためのカリキュラムの検討

4 学期制を活用して海外留学をする場合の単位認定や読替科目等の体制を整備し、2019 年度入学生から 1 つの学期や 2 つの学期を活用して海外留学ができる体制を構築した。また、学生アンケートでは 4 学期制の方が教育効果は高いとの結果が出ているものの、検定合格率等についてはその有効性が明確になっていない。資格所得やグローバル・コンピテンス育成に対する効果については引き続き検証する。